

(様式第10)

産医大発 230229 号
令和 5年 10月 5日
厚生労働大臣 殿 開設者名 学校法人 産業医科大学
理事長 生田 正之

産業医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号
氏名	学校法人 産業医科大学 理事長 生田 正之

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

産業医科大学病院

3 所在の場所

〒807-8556 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号
電話(093) 691 - 7301

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有					
内科と組み合わせた診療科名等						
<input type="radio"/>	1呼吸器内科		2消化器内科		3循環器内科	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科	8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			11リウマチ科
診療実績						

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科		○	6心臓血管外科		7内分泌外科		○ 8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
1小児歯科		2矯正歯科		○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40				638	678

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	447	63	453.5
歯科医師	12	1	12.0
薬剤師	46	0	46.0
保健師	1	0	1.0
助産師	51	0	51.0
看護師	761	28	785.4
准看護師	0	0	0.0
歯科衛生士	2	0	2.0
管理栄養士	9	0	9.0

職種	員数
看護補助者	107
理学療法士	20
作業療法士	8
視能訓練士	5
義肢装具士	0
臨床工学士	24
栄養士	0
歯科技工士	0
診療放射線技師	55

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	57
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	9	
その他の技術員	27	
事務職員	137	
その他の職員	27	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	41	眼科専門医	7
外科専門医	35	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	9	放射線科専門医	13
小児科専門医	17	脳神経外科専門医	8
皮膚科専門医	6	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	21
産婦人科専門医	15	救急科専門医	5
		合計	212

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (田中 文啓 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

- ・医療の質・安全管理委員会委員(平成26年4月1日～平成29年3月31日、令和2年4月1日～)
- ・医療安全管理責任者(平成28年10月1日～平成29年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	511.7 人	3.6 人	515.3 人
1日当たり平均外来患者数	1510.9 人	60.5 人	1571.4 人
1日当たり平均調剤数		1225.7	剤
必要医師数		139.5	人

必要歯科医師数	2	人
必要薬剤師数	18	人
必要(准)看護師数	312	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要				
集中治療室	358 ㎡	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	10 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有	
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	233.44	㎡	病床数	21 床	
	[移動式の場合]	台数	6	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	16.96				㎡
	[共用室の場合]	共用する室名					
化学検査室	175.41 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、冷蔵庫、冷凍庫 他			
細菌検査室	66.41 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動細菌同定検査装置、薬剤感受性検査装置、全自動培地塗抹装置 他			
病理検査室	145.69 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	バーチャルスライド作成機、免疫染色装置密閉式、自動固定包埋装置 他			
病理解剖室	58.53 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	特殊解剖台、排水細菌システム			
研究室	2233.3 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	実験台、冷蔵庫、冷凍庫、パソコン、測定・分析装置 他			
講義室	1203.5 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	10 室	収容定員	1122 人	
図書室	2,480 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	126,573 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	80.3	%	逆紹介率	57.1	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,319 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,808 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		883 人		
	D: 初診の患者の数		18,929 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況

和田 秀一	(学)福岡大学	○	医療に関する学外の専門家	無	1
押川 麻美	(学)福岡大学		医療に関する学外の専門家	無	1
大杉 一之	(大)北九州市立大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の学外の者	無	2
阿部 慎太郎	(学)産業医科大学		病院長が指名する本学職員	有	1
伊藤 浩二	(学)産業医科大学		本学病院事務部長	有	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
産業医科大学病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インターフェロン α 皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	1
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	0
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る)	0
周術期デュルバルマブ静脈内投与療法	2
アスピリン傾向投与療法 家族性大腸腺腫症	2
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類合計	5
扱い患者数の合計(人)	5

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	8	61	クッシング病	6
2	筋萎縮性側索硬化症	13	62	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	22
3	脊髄性筋萎縮症	4	63	下垂体前葉機能低下症	95
4	原発性側索硬化症	2	64	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
5	進行性核上性麻痺	5	65	サルコイドーシス	51
6	パーキンソン病	160	66	特発性間質性肺炎	60
7	大脳皮質基底核変性症	1	67	肺動脈性肺高血圧症	9
8	ハンチントン病	1	68	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	21
9	神経有棘赤血球症	1	69	リンパ管筋腫症	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	6	70	網膜色素変性症	11
11	重症筋無力症	101	71	バッド・キアリ症候群	1
12	多発性硬化症／視神経脊髄炎	87	72	特発性門脈圧亢進症	2
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	11	73	原発性胆汁性胆管炎	57
14	封入体筋炎	6	74	原発性硬化性胆管炎	4
15	クドウ・深瀬症候群	1	75	自己免疫性肝炎	16
16	多系統萎縮症	7	76	クローン病	86
17	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	42	77	潰瘍性大腸炎	123
18	ライゾゾーム病	4	78	好酸球性消化管疾患	2
19	副腎白質ジストロフィー	2	79	チャージ症候群	1
20	ミトコンドリア病	1	80	クリオピリン関連周期熱症候群	1
21	もやもや病	22	81	若年性特発性関節炎	6
22	HTLV-1関連脊髄症	9	82	非典型溶血性尿毒症症候群	1
23	特発性基底核石灰化症	1	83	筋ジストロフィー	4
24	全身性アミロイドーシス	38	84	脊髄空洞症	1
25	遠位型ミオパチー	1	85	遺伝性ジストニア	2
26	神経線維腫症	12	86	前頭側頭葉変性症	2
27	天疱瘡	19	87	アレキサンダー病	2
28	表皮水疱症	1	88	神経細胞移動異常症	1
29	膿疱性乾癬(汎発型)	17	89	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
30	高安動脈炎	16	90	ランドウ・クレフナー症候群	1
31	巨細胞性動脈炎	13	91	スタージ・ウェーバー症候群	1
32	結節性多発動脈炎	9	92	結節性硬化症	1
33	顕微鏡的多発血管炎	25	93	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	13
34	多発血管炎性肉芽腫症	21	94	特発性後天性全身性無汗症	3
35	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	23	95	弾性線維性仮性黄色腫	2
36	悪性関節リウマチ	44	96	マルファン症候群	1
37	バージャー病	3	97	ウィルソン病	8
38	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	98	クルーゾン症候群	2
39	全身性エリテマトーデス	306	99	プラダー・ウィリ症候群	1
40	皮膚筋炎／多発性筋炎	99	100	急速進行性糸球体腎炎	3
41	全身性强皮症	141	101	一次性ネフローゼ症候群	9
42	混合性結合組織病	59	102	紫斑病性腎炎	2
43	シェーグレン症候群	58	103	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2
44	成人スチル病	16	104	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
45	再発性多発軟骨炎	8	105	肺胞低換気症候群	1
46	ベーチェット病	70	106	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2
47	特発性拡張型心筋症	17	107	尿素サイクル異常症	1
48	肥大型心筋症	1	108	家族性地中海熱	4
49	再生不良性貧血	16	109	慢性再発性多発性骨髄炎	4
50	自己免疫性溶血性貧血	3	110	強直性脊椎炎	43
51	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1	111	軟骨無形成症	1
52	特発性血小板減少性紫斑病	16	112	ファンコニ貧血	1
53	原発性免疫不全症候群	22	113	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2
54	多発性嚢胞腎	14	114	クロンカイト・カナダ症候群	2
55	黄色靱帯骨化症	5	115	IgG4関連疾患	28
56	後縦靱帯骨化症	36	116	黄斑ジストロフィー	1
57	広範脊柱管狭窄症	21	117	遅発性内リンパ水腫	2
58	特発性大腿骨頭壊死症	21	118	好酸球性副鼻腔炎	50
59	下垂体性ADH分泌異常症	14	119	進行性ミオクロームスてんかん	3
60	下垂体性PRL分泌亢進症	14	120	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
			121	特発性多中心性キャスルマン病	11

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	121
合計患者数(人)	2497

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・歯科外来診療環境体制加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・特定機能病院入院基本料 (精神病棟10対1)
・特定機能病院入院基本料 (一般病棟7対1)	・臨床研修病院入院診療加算
・救急医療管理加算	・超急性期脳卒中加算
・診療録管理体制加算1	・医師事務作業補助体制加算1(15対1補助体制加算)
・急性期看護補助体制加算25対1(看護補助者5割以上)	・夜間100対1急性期看護補助加算
・夜間看護体制加算	・看護職員夜間配置加算12対1 配置加算1
・療養環境加算	・重症者等療養環境特別加算
・無菌治療室管理加算1	・無菌治療室管理加算2
・緩和ケア診療加算	・がん拠点病院加算の1のイ
・精神科身体合併症管理加算	・精神科リエゾンチーム加算
・医療安全対策加算1	・感染対策向上加算1(指導強化加算)
・患者サポート体制充実加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ハイリスク妊娠管理加算	・ハイリスク分娩管理加算
・後発医薬品使用体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・病棟薬剤業務実施加算2	・データ提出加算2
・入退院支援加算2(入院時支援加算)	・認知症ケア加算2
・精神疾患診療体制加算	・精神科急性期医師配置加算
・地域医療体制確保加算	・特定集中治療室管理料2(小児加算、早期栄養介入管理加算)
・総合周産期特定集中治療室管理料	・新生児治療回復室入院医療管理料
・小児入院医療管理料2(無菌治療管理加算1・2)	・看護職員処遇改善評価料63
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理加算	・ウイルス疾患指導料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・糖尿病合併症管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・がん患者指導管理料イ
・がん患者指導管理料ロ	・がん患者指導管理料ハ
・がん患者指導管理料ニ	・外来緩和ケア管理料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・小児運動器疾患指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・婦人科特定疾患治療管理料
・二次性骨折予防継続管理料1	・下肢創傷処置管理料
・院内トリアージ実施料	・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算
・外来放射線照射診療料	・外来腫瘍化学療法診療料1
・連携充実加算	・ニコチン依存症管理料
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・がん治療連携計画策定料
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・肝炎インターフェロン治療計画料
・薬剤管理指導料	・医療機器安全管理料1
・医療機器安全管理料2	・医療機器安全管理料(歯科)
・歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・遺伝学的検査
・染色体検査の注2に規定する基準	・骨髄微小残存病変量測定
・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)(血液を検体とするもの)	・がんゲノムプロファイリング検査
・先天性代謝異常症検査	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・検体検査管理加算(IV)	・国際標準検査管理加算
・遺伝カウンセリング加算	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・胎児心エコー法	・ヘッドアップティルト試験
・長期継続頭蓋内脳波検査	・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図
・脳波検査判断料1	・神経学的検査
・全視野精密網膜電図	・ロービジョン検査判断料

・コンタクトレンズ検査料1	・内服点滴誘発試験
・CT透視下気管支鏡検査加算	・画像診断管理加算3
・ポジトロン断層コンピューター断層複合撮影	・CT撮影及びMRI撮影
・冠動脈CT撮影加算	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・心臓MRI撮影加算	・乳房MRI撮影加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・頭部MRI撮影加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・外来化学療法加算1
・連携充実加算	・無菌製剤処理料
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含)
・がん患者リハビリテーション料	・歯科口腔リハビリテーション料2
・認知療法・認知行動療法1	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・医療保護入院等診療料	・硬膜外自家血注入
・人工腎臓	・導入期加算1
・透析液水質確保加算2及び慢性維持透析濾過加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病腎症に対するLDLアフェレシス療法	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・CAD/CAM冠	・センチネルリンパ節加算
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・椎間板内酵素注入療法
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・角膜移植術(内皮移植加算)	・羊膜移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・網膜再建術	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・人工中耳植込術	・人工内耳植込術
・内視鏡下鼻副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・肺悪性腫瘍手術(壁側臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る)

・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの) 内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) 陰腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・植込型除細動器移植術又は植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹・腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・腹腔鏡下肝切除術 (部分切除及び外側区域切除) (亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・膀胱水圧拡張術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・体外式膜型人工肺管理料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に限る。)
・輸血管理料Ⅱ	・コーディネート体制充実加算
・自己生体組織接着剤作成術	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・同種クリオプレシピテート作製術	・人工肛門人工膀胱造設術前処置加算
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・歯周組織再生誘導手術
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・麻酔管理料(Ⅰ)

・麻酔管理料(Ⅱ)	・放射線治療専任加算
・外来放射線治療加算	・高エネルギー放射線治療
・1回線量増加加算(乳房照射前立腺照射)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・画像誘導放射線治療加算	・体外照射呼吸性移動対策加算
・定位放射線治療	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・画像誘導密封小線源治療加算	・病理診断管理加算2
・デジタル病理画像による病理診断	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・歯科矯正診断料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	血警視監症例カンファレンス(移植カンファレンス含む):45回 脳神経検査判読会:21回 心エコーカンファレンス:22回 体表エコーカンファレンス:11回 乳癌がんサーボード:11回□ 剖検検討会:28回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	28
	剖検率(%)	12.6

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

NO	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	統合シーケンス解析による免疫アレルギー疾患ダイナミクスの解明	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥400,000	補 文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究A)
2	ベーチェット病のゲノムワイド亜型解析によるエビデンス創出とレジストリー構築	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥50,000	補 文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究B)
3	神経精神ループスにおける生理活性物質不均衡、B細胞分化異常を介した病態機構の解明	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥700,000	補 文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
4	ヘルパーT細胞におけるエピゲノム記憶の人為的修復によるSLE新規治療戦略の創出	中山田 真吾	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥700,000	補 文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
5	ヘルパーT細胞を介した免疫誘導性間葉転換のエピゲノム制御による免疫難病の新規治療	宮崎 佑介	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥400,000	補 文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
6	ベーチェット病に関する調査研究	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥350,000	補 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
7	自己免疫疾患に関する調査研究	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥1,000,000	補 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
8	IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥500,000	補 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
9	エクソン解析とゲノム編集によるSLE治療標的の創出	久保 智史	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥2,000,000	補 【(公財)アステラス病態代謝研究会】 2022.12.1～2023.11.30
10	全身性エリテマトーデス(SLE)の自然免疫系と自己免疫系の連関に中心的に関与する因子を特定するための臨床研究	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥410,093	委 【エーザイ(AMED)】 R4(2022).4.1～ R5(2023).3.31

小計10

11	自己免疫性疾患の臓器病変局所におけるシングルセルRNAシーケンズを用いたマルチオミクス解析による病態解明基盤の構築	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥130,000	委	【東京大学(AMED)】 R4(2022).4.1～ R5(2023).3.31
12	顕微鏡的多発血管炎および多発血管炎性肉芽腫症に対するトシリズマブの有効性、安全性、薬物動態に関する医師主導治験	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥390,000	委	【東京女子医科大学(AMED)】 R4(2022).4.1～ R5(2023).3.31
13	免疫オミクス情報の横断的統合による関節リウマチのゲノム個別化医療の実現	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥1,300,000	委	【大阪大学(AMED)】 2022.4.1～2023.3.31
14	ベーチェット病の病態解明および治療法開発を目的とした全国レジストリの構築	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥286,000	委	【横浜市立大学(AMED)】 2022.4.1～2023.3.31
15	次世代ゲノミクス研究による乾癬の疾患病態解明・個別化医療・創薬	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥3,250,000	委	【大阪大学(AMED)】 2022.4.1～2023.3.31
16	免疫担当細胞 eQOL データを用いた免疫介在性疾患ゲノム情報からの層別化および予後予測モデルの構築	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥390,000	委	【大阪大学(AMED)】 R4(2022).4.1～ R5(2023).3.31
17	症例登録費用	田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	¥700,000	委	【エーザイ(AMED)】 2020.6.1～2026.9.30
18	左室収縮不全における僧帽弁尖組織延長の心不全軽減効果:3次元心エコー法による検討	赤司 純	循環器内科、腎臓内科	¥400,000	補	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究補助金(若手研究)
19	NotchリガンドDll1による動脈硬化プラーク不安定化機構の解明と新規治療開発	古賀 純一郎	循環器内科、腎臓内科	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究補助金(基盤研究C)
20	自己管理アプリを用いた肺高血圧症のマインドフルネス/セルフマネジメントプログラム	片岡 雅晴	循環器内科、腎臓内科	¥30,000	補	文部科学省(日本学術振興会) 科学研究補助金(基盤研究B)

小計10

21	最新オミクス解析法に基づく抗癌剤治療による心血管障害発症の分子病態解明研究	片岡 雅晴	循環器内科、腎臓内科	¥509,300	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
22	心房中隔欠損症に伴う肺動脈性肺高血圧症の分子疫学的国際共同研究	片岡 雅晴	循環器内科、腎臓内科	¥400,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(国際共同研究強化B)
23	洞不全症候群・心房細動の関連遺伝子単離と機能解析:J-PRES3	安部治彦	循環器内科、腎臓内科	¥6,000	委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
24	肺動脈性肺高血圧症の分子遺伝学的診断治療ガイドラインに向けたエビデンス創出研究	片岡 雅晴	循環器内科、腎臓内科	¥11,559,834	委	【日本医療研究開発機構(AMED) R4(2022).4.1～R5(2023).3.31
25	慢性血栓性肺高血圧症の分子遺伝学的エビデンス創出研究	片岡 雅晴	循環器内科、腎臓内科	¥11,023,298	委	【日本医療研究開発機構(AMED) R4(2022).4.1～R5(2023).3.31
26	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症の分子遺伝学的エビデンス創出研究	片岡 雅晴	循環器内科、腎臓内科	¥11,031,735	委	【日本医療研究開発機構(AMED) R4(2022).4.1～R5(2023).3.31
27	急性心筋梗塞後炎症、左室リモデリングに対する単球標的抗炎症エクソソーム製剤の開発	古賀 純一郎	循環器内科、腎臓内科	¥2,500,000	委	【九州大学病院(AMED)】R4(2022).4.1～R5(2023).3.31
28	芦屋町における児童生徒の保健管理に関する調査研究	片岡雅晴	循環器内科、腎臓内科	¥1,000,000	委	芦屋町
29	大規模臨床検体を用いた肺動脈性肺高血圧症の遺伝学的病態基盤解明研究	片岡 雅晴	循環器内科、腎臓内科	¥3,000,000	補	【武田科学振興財団】R4入金後～2027.3.31
30	肝細胞における銅や遊離脂肪酸による細胞障害に対する亜鉛の保護作用の検討	草永 真志	消化器内科、肝胆膵内科	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)

小計10

31	全ての操作を遠隔化した消化器内視鏡治療ロボットの開発	久米 恵一郎	消化管内科、肝胆膵内科	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
32	非ウイルス性肝疾患でのオートファジーならびに封入体形成の意義	原田 大	消化管内科、肝胆膵内科	¥1,200,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
33	疾患進行を示す膠原病関連間質性肺疾患の画像解析:胸部CTの新たな診断基準の策定	川口 貴子	呼吸器内科	¥300,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
34	有機高分子化合物の肺への有害性の検証	原 可奈子	呼吸器内科	¥600,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
35	マイクロRNAの網羅的解析を用いた高分子化合物による肺障害機序の解明	東 泰幸	呼吸器内科	¥1,400,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
36	網羅的菌叢解析を用いた慢性下気道感染症の病態の解明	矢寺 和博	呼吸器内科	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
37	マクロファージ貪食能に基づく肺非結核性抗酸菌症の新たな治療戦略	山崎 啓	呼吸器内科	¥1,500,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
38	架橋型アクリル酸系水溶性高分子化合物の粉体を取り扱う労働者に発生した呼吸器疾患に関する研究	矢寺 和博	呼吸器内科	¥10,501,000	補	労災疾病臨床研究事業費補助金(呼吸器疾患関連研究分野)
39	既存の摂食障害の脳画像データベースを用いた解析研究による、摂食障害臨床マーカーの特定	兒玉 直樹	脳神経内科、心療内科	¥1,950,000	委	【国立精神・神経医療研究センター(AMED)】 R4(2022).4.1~ R5(2023).3.31
40	進行性ミオクロームスてんかんの進行を止める病態抑制治療の開発	豊田 知子	脳神経内科、心療内科	¥1,300,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)

小計10

41	ADHD患者の運転技能に与える影響の検討ー新たな臨床指標の開発に向けてー	小西 勇輝	神経・精神科	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
42	機械学習を用いた統合失調症の運転適性判断指標の抽出	小西 勇輝	神経・精神科	¥200,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
43	向精神薬添付文書の自動車運転に関する注意喚起の類型化、向精神薬の運転リスクに関する階層的文献レビュー	吉村 玲児	神経・精神科	¥650,000	委	【名古屋大学(AMED)】 R4(2022).4.1~ R5(2023).3.31
44	エクソソーム内包miRNA-mRNA-オミックス解析から薬物反応を探る	吉村 玲児	神経・精神科	¥1,000,000	補	【(公財)先進医薬研究振興財団】 2022.12.1~2023.11.30
45	気分状態の安定した双極性障害患者の認知機能改善に対するLurasidone 費用療法(ELICE-BD)の有効性評価のための6週間のランダム化二重盲検プラセボ対照多施設試験	吉村玲児	神経・精神科	¥1,885,200	委	国立精神・神経医療研究センター
46	医療的ケア児の家族の就労を支援する方策と支援策の効果指標の策定	荒木 俊介	小児科	¥1,100,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
47	次世代シーケンサーとクローンライブラリー法によるPFAPA症候群の咽頭細菌叢解析	楠原 浩一	小児科	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
48	JMMLに対する標準的治療法確立	本田 裕子	小児科	¥130,000	委	【名古屋大学(AMED)】 R4(2022).4.1~ R5(2023).3.31
49	ヒアルロン酸分解酵素TMEM2の膵癌悪性化と微小環境ストレス耐性獲得における役割	佐藤 典宏	消化器・内分泌外科	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
50	血中循環腫瘍DNA陽性の治癒切除結腸・直腸がん患者を対象としたFTD/TPI療法とプラセボ比較する無作為化二十盲検第Ⅲ相試験	平田敬治	消化器・内分泌外科	¥500,000	委	国立研究開発法人 国立がん研究センター

小計10

51	ヒアルロン酸代謝亢進フェノタイプとHippoシグナルを介した膵癌悪性化メカニズム	平田 敬治	消化器・内分泌外科	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
52	JCOG1807C:肺尖部胸壁浸潤癌に対する化学放射線療法後の術前後デュルバルマブもしくはデュルバルマブ維持療法を併用した集学的治療に関する単群検証的試験	田中文啓	呼吸器・胸部外科	¥500,000	委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
53	新開発マイクロ流路システムによる肺癌における循環腫瘍細胞の検出と臨床的意義	田中 文啓	呼吸器・胸部外科	¥1,300,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
54	胸部悪性腫瘍における免疫微小環境のモニタリングに関する研究	田中 文啓	呼吸器・胸部外科	¥100,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
55	肺癌における免疫チェックポイント阻害剤耐性メカニズムの解明	田中 文啓	呼吸器・胸部外科	¥10,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
56	CTC-chipを用いた悪性胸膜中皮腫における循環腫瘍細胞検出の有用性	松宮 弘喜	呼吸器・胸部外科	¥500,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
57	CTC-chipからの循環腫瘍細胞単離と遺伝子変異検索の臨床的有用性	森 将鷹	呼吸器・胸部外科	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
58	くも膜下出血後の脳損傷に対する5-アミノレブリン酸の治療効果の検討	宮岡 亮	脳神経外科	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
59	悪性脳腫瘍における5-アミノレブリン酸の放射線治療増強効果のメカニズムの解明	山本 淳考	脳神経外科	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
60	トリアムシロンの作用機序からアプローチするばね指発生機序の解明	酒井 昭典	整形外科	¥1,500,000	委	垂水市立医療センター垂水中央病院

小計10

61	荷重増減下での骨-筋連関における分子メカニズムの解明とその制御法の開発	酒井 昭典	整形外科	¥900,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
62	バゾプレッシンを可視化した遺伝子改変動物を用いた神経障害性疼痛機構の解明	鈴木 仁士	整形外科	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
63	ロコモティブシンドロームと転倒の発生要因と相互作用の解明:縦断調査と介入研究	中村 英一郎	整形外科	¥800,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
64	人工受容体遺伝子導入動物を用いた下垂体後葉ホルモンの鎮痛メカニズムの解明	川崎 展	整形外科	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
65	慢性閉塞性肺疾患(COPD)に合併する骨粗鬆症の病態メカニズム解明	塚本 学	整形外科	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
66	股関節安定性メカニズムの解明ー股関節鏡視下手術の健全な普及のためにー	宇都宮 啓	整形外科	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
67	インスリン受容体基質に着目した2型糖尿病に伴う組織線維化機序の解明と予防	山中 芳亮	整形外科	¥1,200,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
68	シナプス可塑性を基盤とする急性・慢性疼痛による神経内分泌反応の神経回路の解明	藤谷 晃亮	整形外科	¥1,100,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
69	CRPS類似モデル動物の骨代謝動態におけるTRPV1の関与の検討	馬場 一彦	整形外科	¥1,200,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(研究活動スタート支援)
70	アルデヒド脱水素酵素2遺伝子多型と腱板断裂の関連-基礎から臨床までの総合的解明-	田島 貴文	整形外科	¥1,000,000	補	【独立行政法人日本学術振興会】 2022.7.1～2023.3.31

小計10

71	泌尿器がん休業者に対する両立支援の最適化と支援効果の検証	富崎 一向	泌尿器科	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
72	黄斑低形成の臨床的および分子生物学的検討	近藤 寛之	眼科	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
73	医療従事者を対象とした放射線白内障自動診断システム構築及び放射線防護教育の実践	永田 竜朗	眼科	¥600,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
74	頭部IVRを対象に放射線白内障の線量応答を解明し将来の発症リスクを予測する	永田 竜朗	眼科	¥50,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究B)
75	遺伝性網膜・視神経ジストロフィの症例収拾および疾患別頻度の検討	近藤 寛之	眼科	¥100,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
76	リバスジルを用いた未熟児網膜症に対する新規点眼薬の開発	近藤 寛之	眼科	¥455,000	委	【九州大学(AMED)】 2022.4.1～2023.3.31
77	鼻粘膜上皮細胞の細胞内Ca振動による線毛運動の制御―単離ヒト鼻粘膜細胞による解析	鈴木 秀明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥500,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
78	婦人科がん患者の就労支援 ―保健師教育プログラムとスマートフォンアプリの開発―	松浦 祐介	広域・発達看護	¥800,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
79	子宮頸部小細胞癌の臨床病理学的解析と治療抵抗性メカニズムの解明	吉野 潔	産科婦人科	¥900,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
80	婦人科がん治療後のQOL推移と復職に影響を与える社会的要因の分析	植田 多恵子	産科婦人科	¥1,100,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)

小計10

81	がん微小環境の制御による腫瘍細胞の分化転換	原田 大史	産科婦人科	¥300,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
82	妊娠と出産が就労に与える身体的・社会的影響についての研究	金城 泰幸	産科婦人科	¥1,500,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
83	糖代謝異常の病態下におけるメチル水銀の母仔移行に関する研究	柴田 英治	産科婦人科	¥200,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
84	PPROM-AZM研究:妊娠28週未満発症のpPROM合併症妊婦RCT:症例登録	柴田 英治	産科婦人科	¥13,000	委	【自治医科大学(AMED)】 2022.4.1~2023.3.31
85	CT検診画像および総合健診データによる生活習慣と関連した骨折リスク評価研究	青木 隆敏	放射線科	¥800,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
86	高精度な電磁界シミュレーション技術を用いた新たな温熱療法の開発	大栗 隆行	放射線科	¥800,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
87	マルチパラメトリックMRIによる中枢神経ループスの活動性バイオマーカーの創出	井手 智	放射線科	¥900,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
88	新規鎮痛薬・鎮痛法開発を目指したNav1.7機能喪失型先天性無痛症の病態機序解明	堀下 貴文	麻酔科	¥1,100,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
89	経頭蓋直流電気刺激が脳卒中後の神経可塑性に関連する生化学的因子に与える効果	伊藤 英明	リハビリテーション科	¥600,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
90	末梢性の上肢麻痺に対する経頭蓋直流電気刺激療法の効果についての研究	松嶋 康之	リハビリテーション科	¥800,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)

小計10

91	肘部管症候群における術中末梢神経電気刺激療法—神経再生とBDNF遺伝子多型—	蜂須賀 明子	リハビリテーション科	¥900,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
92	非特異的慢性腰痛に対する中枢性電気刺激の除痛効果に関する研究	佐伯 覚	リハビリテーション科	¥900,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
93	脳卒中後疼痛に対する中枢性電気刺激の除痛効果と身体機能改善効果に関する研究	徳永 美月	リハビリテーション科	¥1,600,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
94	手指を対象とした末梢効果器型訓練支援ロボットの開発と臨床適応に関する研究	越智 光宏	リハビリテーション科	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
95	スモンに関する調査研究	佐伯 覚	リハビリテーション科	¥700,000	補	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
96	変形性疾患を有する高齢労働者に発症した職業性腰痛の労災補償に関する研究	佐伯 覚	リハビリテーション科	¥3,640,000	補	労災疾病臨床研究事業費補助金(2.業務上の負傷と基礎疾患の関係に関する研究分野)
97	地域医療における組織診断の意義	久岡正典	病理診断科	¥3,081,600	委	(公社)地域医療振興協会 飯塚市立病院
98	地域住民の疾病に関する病理組織学的研究	中山敏幸	病理診断科	¥46,618	委	中津市立中津市民病院
99	妊娠期の母の腸内細菌由来水素ガスが胎児及び成長後の疾病へ及ぼす影響に関する研究	中山 敏幸	病理診断科	¥100,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
100	尿素トランスポーターを標的とした尿素依存性浸透圧利尿薬の新機序解明	久間 昭寛	腎センター	¥700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)

小計10

101	白血病細胞に対するステロイド様抗がん剤抵抗性の機序解明から個別化診断への応用	中西 司	血液内科	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
102	神経障害性疼痛制御における中枢神経スフィンゴシン1リン酸シグナル伝達系の役割	原 幸治	手術部	¥900,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
103	MRSA骨軟部感染症に対する持続局所抗菌薬灌流療法の最適化のための微生物学的検証	善家 雄吉	救急医	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
104	医療従事者を対象とした屋内位置測位を用いた放射線被ばく原因究明ツールの開発と実践	二瓶 俊一	救急医	¥1,700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
105	両立支援における疾患毎の復職課題と休業期間との関連性の解明	原田 有理沙	両立支援科	¥400,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
106	ADHDの傾向を有する労働者のコホート調査	永田 昌子	両立支援科	¥800,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
107	治療と仕事を両立する患者に対する継続的な支援の実態と方策の検討	永田 昌子	両立支援科	¥7,963,000	補	厚生労働科学研究費補助金(JA労働安全衛生総合研究事業)
108	医療的ケアを要する先天性心疾患児の就園状況の調査:インクルーシブ教育実現に向けて	清水 大輔	総合周産期母子医療センター	¥1,300,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
109	認知症介護が労働者の健康(特に精神状態)や就労に及ぼす影響に関するコホート調査	池ノ内 篤子	認知症センター	¥900,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
110	在留外国人にとっての医療問題は医療者との熟議でどこまで解決可能か?	森 朋有	総合診療科	¥1,000,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)

小計10

111	サルコイドーシスの疾患進行における肺胞マクロファージフェノタイプの役割の検討	赤田 憲太朗	感染制御部	¥1,100,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(若手研究)
112	各種抗ウイルス効果を標榜している製品のSARS-CoV-2に対する不活化効果の確認と実効性の高い感染対策法の確立	鈴木 克典	感染制御部	¥3,900,000	委	【北里大学(令和3年度厚生労働行政推進調査事業)】2022.11.1~2023.3.31
113	患者特性、診療内容および看護師配置状況が日々の患者状態変化に与える影響	林田 賢史	医療情報部	¥3,700,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究B)
114	日々の患者状態と診療情報を用いた病棟の忙しさと有害事象発生に関する緩急	林田 賢史	医療情報部	¥50,000	補	文部科学省(日本学術振興会)科学研究補助金(基盤研究C)
115	医療の質および患者アウトカムの向上に資する、看護ニーズに基づく適切な看護サービス・マネジメント手法の開発	林田 賢史	医療情報部	¥3,077,000	補	厚生労働科学研究費補助金(IA.地域医療基盤開発推進研究事業)
116	データ駆動で地域の実情に応じて医療提供体制構築を推進するための政策研究	林田 賢史	医療情報部	¥250,000	補	厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)
117	認知症施策の評価・課題抽出のための研究:領域横断・融合的アプローチと大規模データベースの実践的活用	林田 賢史	医療情報部	¥300,000	補	厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計7
計117

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを称する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Tanaka Y, Matsubara T, Hashizume K, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌 代謝糖尿病内科	Efficacy and safety of abatacept in biologic-naïve patients with active rheumatoid arthritis by background methotrexate dose: post hoc analysis of a randomized, placebo-controlled, phase 4 study	Mod Rheumatol. 2022 Apr; 32(3):500-507.	Original Article
2	Inamasu Y, Nikaido Y, Miyahara S, et al.	消化管内科、肝胆膵内科	Dissemination of Leptospira into the intestinal tract resulting in fecal excretion in a hamster model of subcutaneous infection with Leptospira interrogans	Microb Pathog. 2022 Apr; 165:105481.	Original Article
3	Tesen H, Konno Y, Tateishi S, et al.	神経・精神科	Association Between Loneliness and Sleep-Related Problems Among Japanese Workers During the COVID-19 Pandemic	Front Public Health. 2022 Apr; 10:828650. (オンライン)	Original Article
4	Okamoto N, Watanabe K, Tesen H, et al.	神経・精神科	Volume of Amygdala Subregions and Plasma Levels of Brain-Derived Neurotrophic Factor and Cortisol in Patients with s/s Genotype of Serotonin Transporter Gene Polymorphism of First- Episode and Drug-Naive Major	Neurol Int. 2022 Apr; 14(2):378-390.	Original Article
5	Okamoto N, Watanabe K, Ikenouchi A, et al.	神経・精神科	L-Arginine-Nitric Oxide Pathway and Neural Networks in Major Depression	Psychiatr Danub. 2022 Apr; 34(1):102-103.	Letter
6	Tomisaki I.	泌尿器科	Editorial Comment to Tri-modality therapy with i-125 brachytherapy, external beam radiation therapy, and short-term hormone therapy for high-risk prostate cancer after holmium laser enucleation of the prostate	IJU Case Rep. 2022 Apr; doi: 10.1002/iju5.12453. (オンライン)	Others
7	Iwanaga Y, Yamasaki K, Nemoto K, et al.	呼吸器内科	Combined Radiographic Features and Age Can Distinguish Mycoplasma pneumoniae Pneumonia from Other Bacterial Pneumonias: Analysis Using the 16S rRNA Gene Sequencing Data	J Clin Med. 2022 Apr;11(8):2201. (オン ライン)	Original Article
8	Hirosawa M, Niino D, Tsukada J.	血液内科	Transmission of Human T-Lymphotropic Virus Type I to Donor-Origin T Cells During Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation	J Hematol. 2022 Apr; 11(2):81-85.	Letter
9	Ikenouchi A, Konno Y, Fujino Y, et al.	認知症センター	Relationship Between Employment Status and Unstable Periods in Outpatients with Bipolar Disorder: A Multicenter Treatment Survey for Bipolar Disorder in Psychiatric Outpatient Clinics (MUSUBI) Study	Neuropsychiatr Dis Treat. 2022 Apr; 18:801-809.	Original Article
10	Igata R, Tesen H, Konishi Y, et al.	神経・精神科	Prisoner's dilemma game in recovered schizophrenia patients, compared with healthy controls: Preliminary findings	Schizophr Res. 2022 May; 243:431-432.	Letter

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを称する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
11	Suga S, Kyono Y, Kido T, et al.	小児科	Long use of continuous positive airway pressure protects against the development of treatment-requiring retinopathy of prematurity	Sci Rep. 2022 May; 12(1):7799. (オンライン)	Original Article
12	Matsumiya H, Mori M, Kanayama M, et al.	呼吸器・胸部外科	Thickened parietal pleural covering in intractable pneumothorax: A case report	Ann Med Surg (Lond). 2022 May; 78:103792. (オンライン)	Case report
13	Oyama R, Kanayama M, Mori M, et al.	呼吸器・胸部外科	CD155 expression and its clinical significance in non-small cell lung cancer	Oncol Lett. 2022 May; 23(5):166.	Original Article
14	Kuhara S, Itoh H, Araki M, et al.	リハビリテーション部	Excessive Workload Beyond Measured Exercise Tolerance Affects Post-Discharge Mental Health in Workers With Heart Disease: A Case-Based Observational Study	J Occup Environ Med. 2022 May; 64(5):e310- e315. (オンライン)	Original Article
15	Higa Y, Nabeshima Y, Kitano T, et al.	臨床検査・輸血部	Brain natriuretic peptide measurements using standard biochemical equipment: Comparisons with conventional immunoassays	PLoS One. 2022 May; 17(5):e0268895. (オンライン)	Original Article
16	Kusaka K, Nakano K, Fukuyo S, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	A case of mixed connective tissue disease complicated by pulmonary hypertension and ascites after addition of pulmonary vasodilators	Mod Rheumatol Case Rep. 2022 Jun; 6(2):203-208. (オンライン)	Case report
17	Tsukamoto M, Okimoto N, Mori M, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	Bone microstructure changes due to once-/twice-weekly teriparatide administration: A report of five cases using high-resolution peripheral quantitative computed tomography	Mod Rheumatol Case Rep. 2022 Jun; 6(2):301-304. (オンライン)	Case report
18	Mori Y, Okawara M, Fujimoto K, et al.	消化器・内分泌外科	Evaluation of cholecystectomy in older individuals using real-world data: a multilevel analysis based on a nationwide administrative database in Japan	J Gastroenterol. 2022 Jun; 57(6):433-440.	Original Article
19	Fujimoto N, Minato A, Igawa T, et al.	泌尿器科	Immediate Prostate-specific Antigen Decline After Enzalutamide Following Abiraterone Predicts Survival in Castration-resistant Disease	Anticancer Res. 2022 Jun; 42(6):3041-3047.	Original Article
20	Kinjo Y, Matsuura Y, Ohguri T, et al.	産婦人科	Retrospective analysis of prognosis using the Gynecology Oncology Group score of stage IB-IIA node negative uterine cervical cancer after radical hysterectomy and trachelectomy	Mol Clin Oncol. 2022 Jun; 16(6):105.	Original Article

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを称する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	Kawaguchi T, Tachiwada T, Yamasaki K, et al.	呼吸器内科	An Autopsy Case of An Acute Exacerbation of Idiopathic Pulmonary Fibrosis Triggered by the Inhalation of a Waterproofing Spray	Intern Med. 2022 Jun; 61(12):1881-1886.	Case report
22	Kawaguchi T, Yamasaki K, Shingu T, et al.	呼吸器内科	Advanced lung adenocarcinoma detected by choroidal metastasis in a patient with amyopathic dermatomyositis: A case report	Thorac Cancer. 2022 Jun;13(11):1739-1743.	Case report
23	Ikenouchi A, Okamoto N, Igata R, et al.	認知症センター	The Molecular Mechanism of Exercise for Treatment of Patients with Major Depression: A Preliminary Report on the Dynamics of Metabolites of Nitric Oxide and Catecholamines	J Integr Neurosci. 2022 Jun; 21(4):123.	Original Article
24	Takeuchi M, Esaki A, Higa Y, et al.	臨床検査・輸血部	Temporal changes in spike IgG levels after two doses of BNT162b2 vaccine in Japanese healthcare workers: Do spike IgG levels at 3 months predict levels 6 or 8 months after vaccination?	PLoS One. 2022 Jun; 17(6):e0263486. (オンライン)	Original Article
25	Tanaka Y, Takahashi T, Sumi M, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	Immunogenicity of sarilumab and impact on safety and efficacy in Japanese patients with rheumatoid arthritis: analysis of two Phase 3 randomised clinical trials	Mod Rheumatol. 2022 Jul; 32(4):686-695.	Original Article
26	Tanaka Y, Takeuchi T, Kato D, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	Impact of age on the efficacy and safety of peficitinib (ASP015K) for the treatment of rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol. 2022 Jul; 32(4):696-707.	Original Article
27	Tanaka Y, Takeuchi T, Kato D, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	A pooled analysis of serious infections and herpes zoster-related disease in Asian patients with rheumatoid arthritis treated with peficitinib (ASP015K) over a median of 3 years	Mod Rheumatol. 2022 Jul; 32(4):708-717.	Original Article
28	Akashi J, Hino A, Tateishi S, et al.	循環器内科、腎臓内科	Spread of infection and treatment interruption among Japanese workers during the COVID-19 pandemic: A cross-sectional study	Front Public Health. 2022 Jul; 9:21966. (オンライン)	Original Article
29	Hirashima T, Okamoto N, Ikenouchi A, et al.	神経・精神科	Differences in the Disease Severity and Background Characteristics of Patients with Suicide Attempts Due to Overdose According to the Time of Day	Psychiatr Danub. 2022 Jul; 34(2):322-323.	Letter
30	Baba K, Kawasaki M, Nishimura H, et al.	整形外科	Upregulation of the hypothalamo-neurohypophysial system and activation of vasopressin neurones attenuates hyperalgesia in a neuropathic pain model rat	Sci Rep. 2022 Jul; 12(1):13046. (オンライン)	Original Article

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを称する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Sugino H, Sawada Y.	皮膚科	Influence of S100A2 in Human Diseases	Diagnostics (Basel). 2022 Jul; 12(7):1756. (オンライン)	Review
32	Takayanagi-Hara R, Sawada Y, Sugino H, et al.	皮膚科	STING expression is an independent prognostic factor in patients with mycosis fungoides	Sci Rep. 2022 Jul; 12(1):12739. (オンラ イン)	Original Article
33	Nishizawa N, Okawara M, Mori M, et al.	呼吸器・胸部外科	Postoperative cerebral infarction risk is related to lobectomy site in lung cancer: a retrospective cohort study of nationwide data in Japan	BMJ Open Respir Res. 2022 Jul; 9(1):e001327. (オンラ イン)	Original Article
34	Nemoto Y, Kuroda K, Mori M, et al.	呼吸器・胸部外科	Robot-assisted thoracoscopic resection of a posterior mediastinal tumor with preserving the artery of Adamkiewicz	Surg Case Rep. 2022 Jul; 8(1):129. (オンラ イン)	Case report
35	Kanayama M, Mori M, Matsumiya H, et al.	呼吸器・胸部外科	Surgical strategy for malignant pleural mesothelioma: the superiority of pleurectomy/decortication	Surg Today. 2022 Jul; 52(7):1031-1038.	Original Article
36	Yoshino K, Kurita T, Takahashi F, et al.	産婦人科	Annual report of the committee on gynecologic oncology, the Japan Society of Obstetrics and Gynecology: Annual patient report for 2019 and annual treatment report for 2014	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Jul; 48(7):1570- 1579.	Others
37	Yatera K, Mukae H.	呼吸器内科	Nitric oxide/nitric oxide synthase in the pathogenesis of pulmonary emphysema	Respir Investig. 2022 Jul; 60(4):443-445.	Others
38	Hara K, Haranishi Y, Terada T.	手術部	Verbascoide administered intrathecally attenuates hyperalgesia via activating mu-opioid receptors in a rat chronic constriction injury model	Eur J Pain. 2022 Jul; 26(6):1322-1332.	Original Article
39	Miyazaki Y, Nakayamada S, Sonamoto K, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌 代謝糖尿病内科	Efficacy and safety of belimumab during maintenance therapy in patients with systemic lupus erythematosus	Rheumatology (Oxford). 2022 Aug;61(9):3614-3626.	Original Article
40	Yoshimura R, Okamoto N, Ikenouchi A.	神経・精神科	Plasma levels of interleukin-6 and 3- methoxy-4-hydroxyphenylglycol and treatment with milnacipran in major depression	Ther Adv Psychopharmacol. 2022 Aug; 12:2045125322111623 8. (オンライン)	Letter

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを称する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Harada KI, Miyake H, Furukawa J, et al.	泌尿器科	Comprehensive assessments of immuno-oncology drug-based combination therapies as first-line treatment for advanced renal cell carcinoma	Int J Urol. 2022 Aug; 29(8):816-822.	Review
42	Ohkubo JI, Wakasugi T, Takeuchi S, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Biophysical properties of the neck skin indicating potential complications of salvage surgery for laryngeal/hypopharyngeal cancer	Acta Otolaryngol. 2022 Aug; 142(7-8):634- 637.	Original Article
43	Kondo E, Shibata E, Sakuragi T, et al.	産婦人科	Pre-Cerclage cervical length predicts long-term pregnancy sustenance: A case-control study	Ann Med Surg (Lond). 2022 Aug; 81:104467. (オンライン)	Original Article
44	Morimoto T, Yamasaki K, Shingu T, et al.	呼吸器内科	Autopsy case of a patient with rapidly progressive combined small-cell lung carcinoma with spindle-shaped cell tumor	Thorac Cancer. 2022 Aug; 13(15):2279- 2282.	Case report
45	Shimizu D, Hoshina T, Kawamura M, et al.	小児科	The possible association between epidemics of hand-foot-and-mouth disease and responsiveness to immunoglobulin therapy in Kawasaki disease	Front Pediatr. 2022 Sep; 10:968857. (オン ライン)	Original Article
46	Tomisaki I.	泌尿器科	Editorial Comment to A conservative treatment for eosinophilic cystitis	IJU Case Rep. 2022 Sep; doi: 10.1002/iju5.12539. (オンライン)	Others
47	Nishida C, Izumi H, Tomonaga T, et al.	呼吸器内科	Effect of Different Molecular Weights of Polyacrylic Acid on Rat Lung Following Intratracheal Instillation	Int J Mol Sci. 2022 Sep; 23(18):10345. (オンライン)	Original Article
48	Morimoto T, Yamasaki K, Isoshima Y, et al.	呼吸器内科	Avelumab-induced Pneumonitis in Metastatic Merkel Cell Carcinoma	Intern Med. 2022 Sep; 61(17):2697-2698.	Others
49	Mori T, Deasy Y, Kanemoto E, et al.	総合診療科	Narratives on the Current Medical Situation in Japan According to Highly Specialized Foreign Professionals	Healthcare (Basel). 2022 Sep; 10(9):1694. (オンライン)	Original Article
50	Nakamura Y, Okabe H, Doi H, et al.	循環器内科、腎臓内科	Efficacy of pressure gradient measurement using peripheral fractional flow reserve in common femoral artery: a case report	Eur Heart J Case Rep. 2022 Oct; 6(11):ytac426. (オン ライン)	Case report

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを称する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Inamasu Y, Ogawa M, Saito M, et al.	消化管内科、肝胆膵内科	Helicobacter pylori results in lysis and death after exposure to water	Helicobacter. 2022 Oct; 27(5):e12921. (オンライン)	Original Article
52	Yoshimura R, Ikenouchi A, Okamoto N.	神経・精神科	Effect of Milnacipran on Plasma Level of Vascular Endothelial Growth Factor in Major Depression	Psychopharmacol Bull. 2022 Oct; 52(4):106-108.	Letter
53	Yoshimura R, Okamoto N, Ikenouchi A.	神経・精神科	Effects of Paroxetine on Plasma Levels of Vascular Endothelial Growth Factor in Patients with Major Depression	Psychiatr Danub. 2022 Oct; 34(3):533-534.	Letter
54	Minato A, Furubayashi N, Harada M, et al.	泌尿器科	Efficacy of Pembrolizumab in Patients With Variant Urothelial Carcinoma: A Multicenter Retrospective Study	Clin Genitourin Cancer. 2022 Oct; 20(5):499.e1-499.e8.	Original Article
55	Nemoto K, Yatera K, Akata K, et al.	呼吸器内科	Comparative study of bacterial flora in bronchoalveolar lavage fluid of pneumonia patients based on their pneumonia subtypes and comorbidities using 16S ribosomal RNA gene analysis	J Infect Chemother. 2022 Oct; 28(10):1402-1409.	Original Article
56	Nawata A, Iwamura R, Shiba E, et al.	病理診断科	Light chain proximal tubulopathy after improvement of tubulointerstitial nephritis in Sjögren's syndrome	Pathol Int. 2022 Oct; 72(10):525-527.	Letter
57	Higuchi S, Funatsu K, Nawata K, et al.	リハビリテーション部	Effect of online physical therapy on workplace accident-related outcomes in nursing care worker: study protocol of a multicentre randomised controlled trial	BMJ Open. 2022 Oct; 12(10):e061804. (オンライン)	Others
58	Uemura F, Okada Y, Torimoto K, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	Association Between Time in Range and Postprandial Glucose Contribution Rate in Non-Insulin-Treated Type 2 Diabetes Patients: Inverse Correlation of Time in Range with Postprandial Glucose Contribution Rate	Diabetes Technol Ther. 2022 Nov; 24(11):805-813.	Original Article
59	Tanaka Y, Yamaguchi A, Miyamoto T, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	Selection of treatment regimens based on shared decision-making in patients with rheumatoid arthritis on remission in the FREE-J study	Rheumatology (Oxford). 2022 Nov; 61(11):4273-4285.	Original Article
60	Todoroki Y, Kubo S, Nakano K, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	Nailfold microvascular abnormalities are associated with a higher prevalence of pulmonary arterial hypertension in patients with MCTD	Rheumatology (Oxford). 2022 Nov; 61(12):4875-4884.	Original Article

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを称する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	Okada K, Kakeda S, Tahara M.	脳神経内科、心療内科	Olfactory Dysfunction Reflects Disease Progression in Japanese Patients with Multiple Sclerosis	Intern Med. 2022 Nov; 61(21):3181-3187.	Original Article
62	Mano Y, Tsukamoto M, Wang KY, et al.	整形外科	Oxidative stress causes muscle structural alterations via p38 MAPK signaling in COPD mouse model	J Bone Miner Metab. 2022 Nov; 40(6):927- 939.	Original Article
63	Itamura M, Sawada Y.	皮膚科	Involvement of Atopic Dermatitis in the Development of Systemic Inflammatory Diseases	Int J Mol Sci. 2022 Nov; 23(21):13445. (オンライン)	Review
64	Matsumiya H, Kuroda K, Mori M, et al.	呼吸器・胸部外科	Dislocation of a middle lobe torsion-preventing bridging structure with an absorptive sheet and fibrin glue: a case report	Surg Case Rep. 2022 Nov; 8(1):207. (オンラ イン)	Case report
65	Anai K, Hayashida Y, Ueda I, et al.	放射線科	The effect of CT texture-based analysis using machine learning approaches on radiologists' performance in differentiating focal-type autoimmune pancreatitis and pancreatic duct carcinoma	Jpn J Radiol. 2022 Nov; 40(11):1156-1165.	Original Article
66	Tanaka Y.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	Systemic lupus erythematosus	Best Pract Res Clin Rheumatol. 2022 Dec; 36(4):101814.	Review
67	Oginosawa Y.	循環器内科、腎臓内科	Validation of the Implantable Cardioverter-Defibrillators Indication Criteria for Nonischemic Cardiomyopathy - Why? When? How?	Circ J. 2022 Dec; 87(1):101-102.	Others
68	Okamoto N, Ikenouchi A, Ide S, et al.	神経・精神科	A Young Japanese Patient with Spinocerebellar Ataxia Type 3 Presenting Depressive State with Cenesthopathy and Delusion: a Case Report	Cerebellum. 2022 Dec; 21(6):1135-1138.	Case report
69	Tsukamoto M, Kawasaki M, Suzuki H, et al.	整形外科	Accurate cup placement using a portable navigation system during total hip arthroplasty based on pelvic orientation in the lateral decubitus position	Artif Organs. 2022 Dec; 46(12):2412- 2422.	Original Article
70	Shibao K, Honda S, Adachi Y, et al.	消化器・内分泌外科	An advanced bipolar device helps reduce the rate of postoperative pancreatic fistula in laparoscopic gastrectomy for gastric cancer patients: a propensity score-matched analysis	Langenbecks Arch Surg. 2022 Dec; 407(8):3479-3486.	Original Article

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを称する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Kuhara S, Matsugaki R, Imamura H, et al.	リハビリテーション部	A survey of the implementation rate of cardiac rehabilitation for patients with heart disease undergoing device implantation in Japan	J Arrhythm. 2022 Dec; 38(6): 1049-1055.	Original Article
72	Tanaka Y.	膠原病リウマチ内科、内分泌 代謝糖尿病内科	A review of Janus kinase inhibitors for the treatment of Covid-19 pneumonia	Inflamm Regen. 2023 Jan; 43(1):3.	Review
73	Kusaka K, Miyagawa I, Kosaka S, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌 代謝糖尿病内科	A case of glucocorticoid-resistant adult Still's disease complicated by pulmonary hypertension and interstitial lung disease	Mod Rheumatol Case Rep. 2023 Jan; 7(1):182-187. (オン ライン)	Case report
74	Tanaka Y, Curtis P, DeRose K, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌 代謝糖尿病内科	Long-term safety and efficacy of belimumab in Japanese patients with SLE: A 7-year open-label continuation study	Mod Rheumatol. 2023 Jan; 33(1):122-133.	Original Article
75	Tanaka Y, Atsumi T, Okada M, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌 代謝糖尿病内科	The efficacy and safety of anifrolumab in Japanese patients with systemic lupus erythematosus: TULIP-2 subanalysis	Mod Rheumatol. 2023 Jan; 33(1):134-144.	Original Article
76	Tanaka Y, Nakayamada S, Yamaoka K, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌 代謝糖尿病内科	Rituximab in the real-world treatment of lupus nephritis: A retrospective cohort study in Japan	Mod Rheumatol. 2023 Jan; 33(1):145-153.	Original Article
77	Tanaka Y, Takeuchi T, Kato D, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌 代謝糖尿病内科	Post hoc analysis of clinical characteristics of patients with radiographic progression in a Japanese phase 3 trial of peficitinib and methotrexate treatment (RAJ4)	Mod Rheumatol. 2023 Jan; 33(1):73-80.	Original Article
78	Tanaka Y.	膠原病リウマチ内科、内分泌 代謝糖尿病内科	What are the hot topics in Japanese rheumatology? Go above and beyond	RMD Open. 2023 Jan; 9(1):e002819. (オン ライン)	Others
79	Okabe H, Muraoka Y, Naka Y, et al.	循環器内科、腎臓内科	Malnutrition leads to the progression of coronary artery calcification in hemodialysis patients	PLoS One. 2023 Jan; 18(1):e0280383. (オ ンライン)	Original Article
80	Ueno H, Ishimaru T, Matsugaki R, et al.	循環器内科、腎臓内科	Occupational Factors Associated with Telemedicine Use in the Japanese Working-Age Population: A Web-Based Study Conducted during the COVID-19 Pandemic	Tohoku J Exp Med. 2023 Jan; 24;259(2):143-150.	Original Article

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを称する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Natsuyama T, Okamoto N, Watanabe K, et al.	神経・精神科	Gyrification patterns in first-episode, drug-naïve major depression: Associations with plasma levels of brain- derived neurotrophic factor and psychiatric symptoms	Front Psychiatry. 2023 Jan; 13:1031386. (オン ライン)	Original Article
82	Okamoto N, Hoshikawa T, Ikenouchi A, et al.	神経・精神科	Comparison of Serum Metabolomics Pathways and Patterns between Patients with Major Depressive Disorder with and without Type 2 Diabetes Mellitus: An Exploratory Study	J Integr Neurosci. 2023 Jan; 22(1):13.	Original Article
83	Tomisaki I, Harada M, Sakano S, et al.	泌尿器科	Association Between Body Mass Index and Outcomes in Patients With Urothelial Carcinoma Treated With Pembrolizumab	Anticancer Res. 2023 Jan; 43(1):269-274.	Original Article
84	Hirosawa M, Goto M, Oku M, et al.	血液内科	Mogamulizumab for post-transplant relapse of adult T-cell leukemia/lymphoma: a case study	Int J Hematol. 2023 Jan; 117(1):143-148.	Case report
85	Ikenouchi A, Fujino Y, Matsugaki R, et al.	認知症センター	The effects of telecommuting and family cohabiting situation on psychological distress in Japanese workers during the COVID-19 pandemic: A cross-sectional study	J Occup Health. 2023 Jan; 65(1):e12391.	Original Article
86	Tanaka Y, Atsumi T, Aletaha D, et al.	膠原病リウマチ内科、内分泌 代謝糖尿病内科	Benefit of Filgotinib, a JAK1 Preferential Inhibitor, in Rheumatoid Arthritis Patients with Previous Rapid Radiographic Progression: Post Hoc Analysis of Two Trials	Rheumatol Ther. 2023 Feb; 10(1):161-185.	Original Article
87	Honma Y, Shibata M, Morino K, et al.	消化管内科、肝胆膵内科	Impact of Interferon-Free Direct-Acting Antivirals on the Incidence of Extrahepatic Malignancies in Patients with Chronic Hepatitis C	Dig Dis Sci. 2023 Feb; 68(2):685-698.	Original Article
88	Yoshimura R, Okamoto N, Chibaatar E, et al.	神経・精神科	The Serum Brain-Derived Neurotrophic Factor Increases in Serotonin Reuptake Inhibitor Responders Patients with First- Episode, Drug-Naïve Major Depression	Biomedicines. 2023 Feb; 11(2):584. (オン ライン)	Original Article
89	Sawada Y.	皮膚科	Occupational Skin Dermatitis among Healthcare Workers Associated with the COVID-19 Pandemic: A Review of the Literature	Int J Mol Sci. 2023 Feb; 24(3):2989. (オン ライン)	Review
90	Mori M, Kanayama M, Kuwata T, et al.	呼吸器・胸部外科	Prognostic impact of PD-L1 and TIGIT expression in non-small cell lung cancer following concurrent chemo-radiotherapy	Sci Rep. 2023 Feb; 13(1):3270. (オンライ ン)	Original Article

小計10件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを称する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
91	Harada A, Tateishi S, Ishimaru T, et al.	両立支援科	Association Between Types of Chronic Disease and Receiving Workplace Accommodations: A Cross-Sectional Study of Japanese Workers	J Occup Environ Med. 2023 Feb; 65(2):93-97.	Original Article
92	Sugimoto N, Kuhara S, Nawata K, et al.	リハビリテーション部	Preoperative decline in skeletal muscle strength of patients with cardiovascular disease affects postoperative pulmonary complication occurrence: a single-center retrospective study	Heart Vessels. 2023 Feb; 38(2):247-254.	Original Article
93	Tanaka Y, Stone JH.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	Perspectives on current and emerging therapies for immunoglobulin G4-related disease	Mod Rheumatol. 2023 Mar; 33(2):229-236.	Review
94	Nakayamada S, Tanaka Y.	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	Development of targeted therapies in IgG4-related disease	Mod Rheumatol. 2023 Mar; 33(2):266-270.	Review
95	Hasegawa E, Miyamoto T, Baba R, et al.	腎センター	The expression of matrix metalloproteinase-12 in the peritoneum of rats with continuous peritoneal dialysis	Clin Exp Nephrol. 2023 Mar; 7(3):203-210.	Original Article
96	Natsuyama T, Okamoto N, Akaji H, et al.	神経・精神科	Prolonged delirium caused by lithium poisoning in an endometrial cancer patient at advanced stage: A case report	Clin Case Rep. 2023 Mar; 11(3):e7040. (オンライン)	Case report
97	Minato A, Kudo Y, Noguchi H, et al.	泌尿器科	Receptor for Hyaluronic Acid-mediated Motility (RHAMM) Is Associated With Prostate Cancer Migration and Poor Prognosis	Cancer Genomics Proteomics. 2023 Mar 20(2):203-210.	Original Article

総計97件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
<p>・ 手順書の主な内容</p> <p>人を対象とする生命科学・医学系研究に関する標準業務手順書 研究責任者・研究者等の責務 研究の適正な実施 インフォームド・コンセント</p> <p>安全性情報に関する標準業務手順書 有害事象等に関する対応</p> <p>人体から取得された試料及び情報等の保管に関する手順書 人体から取得された試料及び情報等の取扱い</p> <p>モニタリングの実施に関する手順書 モニタリングを実施する際の手順</p> <p>産業医科大学倫理委員会監査の実施に関する手順書 倫理委員会監査を実施する際の手順</p> <p>臨床研究審査委員会の審査等に関する手順書 臨床研究審査委員会の運営 倫理審査研究計画書等の提出及び審査の手順</p>	
③ 倫理審査委員会の開催状況	大学倫理委員会 年12回 臨床研究審査委員会年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無

<p>・ 規定の主な内容</p> <p>産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理することを目的とした規程を整備し、以下の内容を規定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「管理すべき利益相反」状況を判断する基準を指針として明示 ・ 産学連携活動を適切に推進するため、利益相反委員会を設置すること ・ 利益相反委員会において、利益相反に関する事項について審議及び審査を行うこと ・ 教職員等に対して、利益相反に該当する事例が発生又は発生が予測され、かつ学校法人活動に悪影響を与えると考えられるときは当該事例を利益相反委員会に報告することを義務付けること 	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>1. 人を対象とする生命科学・医学系研究倫理に関する講習会（令和4年10月21日、24日開催）</p> <p>講習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 2022年度改正の要点 —インフォームド・コンセントの見直し— <p>2. 人を対象とする生命科学・医学系研究倫理に関する講習会（令和5年3月20日、22日開催）</p> <p>講習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護法改正に伴う2022年 改正倫理指針の要点 —改正個人情報保護法のポイント— 	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

産業医科大学病院の診療科等に所属して行う臨床修練（専門研修プログラム） 及び産業医実務研修 a 各診療科に特化した専門的な臨床修練 b 診療を通じての臨床教育の補助的業務及び診療に関する研究 c 産業医科大学若松病院、労災病院等における臨床修練又は事業場、労働衛生機関等における産業医修練、或いはその両方の修練 d 産業医学基本講座の受講 e 産業医学実務講座の受講

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	132.23 人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	診療科長	38年	
片岡 雅晴	循環器内科、腎臓内科	診療科長	20年	
原田 大	消化管内科、肝胆膵内科	診療科長	35年	
塚田 順一	血液内科	診療科長	38年	
矢寺 和博	呼吸器内科	診療科長	28年	
足立 弘明	神経内科、心療内科	診療科長	31年	
田中 優子	脳卒中血管内科	診療科長	19年	
吉村 玲児	神経・精神科	診療科長	34年	
楠原 浩一	小児科	診療科長	39年	
平田 敬治	消化器・内分泌外科	診療科長	35年	
田中 文啓	呼吸器・胸部外科	診療科長	36年	
西村 陽介	心臓血管外科	診療科長	36年	
山本 淳孝	脳神経外科	診療科長	26年	
酒井 昭典	整形外科	診療科長	36年	
江角 元史郎	小児外科	診療科長	19年	
岡田 悦子	皮膚科	副診療科長	26年	
安田 浩	形成外科	診療科長	38年	令和4年4月1日～令和4年6月30日
兵藤 伊久夫	形成外科	診療科長	28年	令和4年7月1日～令和5年3月31日
藤本 直浩	泌尿器科	診療科長	38年	
近藤 寛之	眼科	診療科長	34年	
鈴木 秀明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療科長	39年	
吉野 潔	産婦人科	診療科長	31年	
青木 隆敏	放射線科	診療科長	33年	
堀下 貴文	麻酔科	診療科長	26年	

佐伯 覚	リハビリテーション科	診療科長	34年	
蒲地 正幸	救急・集中治療科	診療科長	37年	令和4年12月1日 救急科より診療科名変更
久岡 正典	病理診断科	診療科長	34年	
相原 啓二	集中治療部	部長	37年	
竹内 正明	臨床検査・輸血部	部長	37年	
楠原 浩一	総合周産期母子医療センター	センター長	39年	
宮脇 昭彦	歯科・口腔外科	診療科長	36年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- 1 がん看護講座 I 年12回（延参加者数：2273人）
- 2 NSTセミナー 年5回（延参加者数：1962人）
- 3 医薬品安全セミナー 年5回（延参加者数：178人）
- 4 合同がんサボード R5. 3. 28（参加者数：42人）
- 5 認知症センター 専門職研修会 R4. 11. 9（参加者数：75人）
- 6 抗菌薬適正使用セミナー 年6回（延参加者数：42人）
- 7 転倒・転落防止対策研修会 R4. 12. 5（参加者数：26人）
- 8 ME安全セミナー（参加者数：R5. 1. 26：26人、R5. 3. 13～17：528人）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- 1 医師の働き方改革に伴う本学の対応に関する説明会 R4. 4. 11～17（参加者数：440人）
- 2 医療安全(医療事故防止・病院感染防止) 職員全体研修会
(参加者数：R4. 7. 4～15：1856人、R4. 9. 5～16：1842人、R5. 2. 6～17：1825人
※DVD及びe-ラーニングによる受講を含む)
- 3 診療用放射線の安全利用のための職員研修会 R4. 11. 9～24
(参加者数：630人※DVD及びe-ラーニングによる受講を含む)
- 4 委託業者医療安全研修 R4. 10. 27～11. 23（参加者数：136人 ※DVDによる受講）
- 5 人を対象とする生命科学・医学系研究倫理に関する講習会
(参加者数：R4. 10. 21、R4. 10. 25：465人、R5. 3. 20、R5. 3. 22：371人)

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 田中 文啓	
管理担当者氏名	医療情報部長 林田 賢史 感染制御部長 鈴木 克典 医薬品安全管理責任者 中村 圭佑 看護部長 大松 真弓 放射線部長 青木 隆敏 医療安全室長 木戸 敦子 医療支援課長 河津 郁穂	医療の質・安全管理部長 古賀 和徳 医療放射線安全管理責任者 青木 隆敏 医療機器安全管理責任者 高橋 一久 薬剤部長 植木 哲也 病院管理課長 星野 一幸 医事課長 井上 明彦

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課	
		各科診療日誌	各病棟	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医療支援課	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	臨床検査・輸血部	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療支援課	電子カルテ及びそれぞれの部署にてファイル形式で管理している。 診療記録等を病院外に持ち出すことは厳禁としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	
		高度の医療の提供の実績	病院管理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
		高度の医療の研修の実績	病院管理課	
		閲覧実績	病院管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部	
規則第一条の十一第一項に掲げる事項		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室	
				年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
				年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部及び医療安全室	年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部及び医療安全室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部及び医療安全室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部及び医療安全室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	情報収集や改善策の実施に関する記録：医療の質・安全管理部及び薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全管理部、臨床工学部及び医療安全室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療の質・安全管理部及び臨床工学部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療の質・安全管理部及び臨床工学部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療の質・安全管理部及び臨床工学部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部及び医療安全室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		監査委員会の設置状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		職員研修の実施状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療の質・安全管理部及び医療安全室
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 伊藤 浩二	
閲覧担当者氏名	病院事務部次長 星野 一幸 病院管理課長代理 黒木 一雅	
閲覧の求めに応じる場所	診療情報閲覧室	
閲覧の手続の概要		
病院事務部入口に診療情報等閲覧受付と表示しており、閲覧希望者が来院された際には、病院管理課にて受付を行い、病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧簿に氏名等を記載して頂き診療情報等閲覧室にて閲覧することとなっている。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全に関する基本的考え方 2) 医療安全のための委員会その他組織に関する基本的事項 3) 医療安全のための職員研修に関する基本方針 4) 医療事故及び病院感染の発生状況の報告等に関する基本方針 5) 医療事故又は病院感染発生時の対応に関する基本方針 6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7) 患者からの相談への対応に関する基本方針 8) 診療用放射線の安全利用のための指針 9) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年13回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故の原因の分析並びに医療事故防止の具体策の調査及び検討に関すること。 2) 医療事故に関する諸記録の点検に関すること。 3) 医療事故発生時の対応状況の調査及び指導に関すること。 4) 医療事故防止対策の実施状況の調査及び指導に関すること。 5) 医療の質向上、医療安全のための啓発、教育及び広報に関すること。 6) 医療の質向上、医療安全のためのモニタリングに関すること。 7) その他医療の質向上、医療安全に必要な事項に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1) 気づきを活かすRRS 2) 血液培養の取り扱いなど 3) マニュアル改訂およびTDM 4) 医薬品の安全な使用について 5) 医療機器及び医療ガスの安全管理について 6) 心理的安全性について 7) 適正麻薬使用についての当院での取組み 8) 抗菌薬適正使用とクロストリジオイデスディフィシル感染症（CDI） 9) 診療用放射線の安全利用のための研修 10) 病院放射線業務従事者の実務概要 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故発生時の原因究明、再発防止策の立案・実施・周知・確認 2) 医療安全対策マニュアルの作成、周知、評価、見直し 	

- 3) 医療安全に関する職員全体研修会の開催
- 4) 医療の質・安全管理委員会の定期的開催（毎月）
- 5) 各部署のセーフティマネージャーとの連携
- 6) 医療安全に関するその他の委員会との連携
- 7) インフォームド・コンセントに関する管理、指導
- 8) 医療安全に関する診療録の記載確認、指導
- 9) 全死亡症例及び管理者が定める水準以上の事象発生時の確認
- 10) 医療安全に関する情報の収集、提供
- 11) 医療安全対策推進のための調査、研究
- 12) 院内の安全に関する相談、助言、医療安全内部通報への対応等

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院感染対策に関する基本的考え方 2) 病院感染対策のための委員会その他組織に関する基本的事項 3) 病院感染対策のための職員研修に関する基本方針 4) 病院感染の発生状況の報告等に関する基本方針 5) 病院感染発生時の対応に関する基本方針 6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7) 患者からの相談への対応に関する基本方針 8) その他病院感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 20 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院感染の原因の分析並びに感染防止の具体策の調査及び検討に関すること。 2) 病院感染に関する諸記録の点検に関すること。 3) 病院感染発生時の対応状況の調査及び指導に関すること。 4) 病院感染防止対策の実施状況の調査及び指導に関すること。 5) 病院感染防止のための啓発、教育及び広報に関すること。 6) その他病院感染の防止に関すること。 7) 抗菌薬適正使用に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 14 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染防止に関わる病院職員の心得 2) 病院感染防止について 病院感染における抗菌薬適正使用について 3) 標準予防策：手洗い・個人防護具の装着・オムツ交換の実際 4) 総論（感染対策について） フレームワークで考える感染症診療 抗菌薬の適正使用 新型コロナウイルス検査の運用方法と感染対策について 感染対策について 個人防護具着脱訓練 感染症診療における適切な細菌検査（検体採取～グラム染色を中心に） 5) 産業医科大学病院における院内感染対策の取組 6) 血液培養の取扱など 7) 手指衛生と標準予防策 8) マニュアル改訂およびTDM 9) 流行性感染症と感染経路別予防策 10) 外部委託のスタッフを対象とした感染防止研修会 (手指衛生、個人防護具、分別廃棄、針刺事故防止、休務のこと) 11) 院内感染防止研修会 12) 感染防止対策の基本・感染経路別の対応 13) 抗菌薬適正使用とクロストリジオイデスディフィシル感染症（CDI） 14) インフルエンザ・ノロウイルス対策 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

JANIS検査部門、ICU部門、手術部位感染サーベイランス及びJ-SIPHEサーベイランスへ参加している。結果は、病院感染防止委員会や関連部署へフィードバックし、周知をしている。手指衛生サーベイランスに関しては結果をセーフティーマネージャー連絡会議、感染防止リンクナース会、感染制御部Information等で全職員に対して周知している。

- 1) 感染制御部ニュース及びInformationの発行にて広報
- 2) セーフティーマネージャー連絡会議を通じて広報
- 3) 病院感染防止委員会を通じて広報
- 4) 手洗い遵守に向けた取り組み
- 5) 病院職員の抗体価検査と予防接種の実施（麻疹、水痘、風疹、ムンプス）
- 6) 感染性廃棄物分別の徹底
- 7) 抗菌薬適正使用セミナーの開催
- 8) 地域連携の充実（カンファレンスなど）
- 9) 体調不良者リストによる職員の感染者の早期発見

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 輸液の適正使用 2) 医療用麻薬の管理と適正使用 3) 制吐薬の適正使用 4) インスリンの適正使用 5) 抗リウマチ薬の適正使用 6) 医薬品の安全な使用について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p>医薬品業務手順書には、次に掲げる業務に関する事項を記載している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医薬品の採用 2) 医薬品の購入 3) 医薬品の保管・管理 4) 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤 5) 患者に対する与薬や服薬指導 6) 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い（収集、管理、周知） 7) 他施設（病院等、薬局等）との連携 8) 手順書の遵守状況の確認 <p>従業者の業務が医薬品業務手順書に基づき行われているかについて、月1回各部署から提出される「医薬品の安全使用のための業務手順チェックリスト」にて、医薬品の適正管理や与薬時における患者確認、6R+Aの遵守等の業務の実施状況を確認している。医療安全管理委員会の定期巡視においても確認を実施している。</p> 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ol style="list-style-type: none"> ① 小児交互性片麻痺に対する塩酸フルナリジンによる治療 ② 炭酸ガス経皮吸収療法に対するハイドロジェルによる治療 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬剤師が未承認等を発見した場合の報告体制の確立 2) 薬剤師による病棟及び外来の月1回院内ラウンドの実施 3) 持参薬の一元管理による効率的な鑑別作業の運用 4) 入院前の服薬状況確認にて、術前休薬の必要な薬剤等の鑑別 5) 経口糖尿病薬（SGLT2阻害薬及びメトホルミン製剤）の術前休薬ルール策定 6) 薬歴ファイルに基づくがん化学療法処方監査の徹底 7) 入院・外来化学療法患者に対する注射用抗がん剤の調製と服薬指導 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 105 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 新しい医療機器の導入時の研修 新規の医療機器を導入する際には、使用予定者に対する研修を行う。 2) 特に安全使用に際して技術の習得が必要と考えられる医療機器に関する研修 以下の医療機器について、年間各2回以上、当該医療機器に携わる医療従事者等の従業者に対し、①医療機器の有効性・安全性に関する事項、②使用方法に関する事項、③保守点検に関する事項、④不具合が発生した場合の対応に関する事項、⑤使用に関して特に法令上遵守すべき事項についての研修を行っている。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人工心肺装置及び補助循環装置 (2) 人工呼吸器 (3) 血液浄化装置 (4) 除細動装置 (5) 閉鎖式保育器 (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置 (7) 診療用粒子線照射装置 (8) 診療用放射線照射装置 3) その他、必要に応じて医療機器に関する研修を行っている。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>以下の医療機器について、保守点検を行い、個々の医療機器ごとに①医療機器名、②製造販売業者名、③型式、型番、購入年、④保守点検の記録(年月日、保守点検の概要、保守点検者名)、⑤修理の記録(年月日、修理の概要、修理者名)を記録している。保守点検の実施状況を評価し、必要に応じて医療安全上の助言を行っている。また、保守点検の一連の手順について職員間で相互に確認を行わせ、保守点検の適切な実施の徹底を図っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人工心肺装置及び補助循環装置 2) 人工呼吸器 3) 血液浄化装置 4) 除細動装置 5) 閉鎖式保育器 6) CTエックス線装置 7) 診療用高エネルギー放射線発生装置 8) 診療用放射線照射装置 9) 核磁気共鳴装置 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： 無 <ol style="list-style-type: none"> ①超音波内視鏡下瘻孔形成術による閉塞性黄疸、急性胆嚢炎治療 ②腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

- 1) 医療機器の不具合情報や安全性情報等の情報を、日本医療機能評価機構、PMDA、メーカーから収集する。院内発生事例は、院内のインシデント・アクシデント報告により収集する。
- 2) 収集した情報を医療の質・安全管理部定例会議で報告し、院内版の医療安全情報等で周知を行う。また、院内発生事例については、メーカーへ使用状況等の情報を伝えるとともに、医療機器安全性情報につきPMDAへ報告を行う。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

<p>① 医療安全管理責任者の配置状況</p> <p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は、病院長の命を受け医療の質・安全管理部の業務を統括し、以下の業務を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理部の各種会議に出席し、統括すること <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療の質・安全管理部定例会議（毎週1回） (2) 医療の質・安全管理委員会（毎月1回定期及び臨時） (3) 事例検証会、MMカンファレンス（重大事例が発生した場合）等 2) 上記会議の決定に基づき、各部署に周知・改善依頼等を行うこと 3) 重大事例発生時の医療の質・安全管理部としての対応を指揮すること 4) 病院運営会議等の院内の会議での医療安全にかかる決定事項を医療の質・安全管理部に周知すること 5) 医療安全内部通報窓口への通報等を通じて、その他医療安全管理の適正な実施に重大な疑義が生じている場合に、必要に応じ、当該部署に指導等を行うこと 6) 医療の質・安全管理部、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者の業務状況を随時確認し必要に応じて指導を行うこと 7) 医療安全管理に関する研修を定期的を受講し、医療安全への理解を深めること 8) その他、医療の質・安全管理部の統括者として、必要な指導・調整等を行うこと <p>※平成二八年改正省令附則第三条第一号の適用を受け、平成28年10月1日より配置。</p>	<p>有・無</p>
<p>② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<p>有（4名）・無</p>
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指名した薬剤師（薬品情報室の薬剤師）に以下の業務を行わせ、定期的に報告を受ける。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 院内の医薬品の使用状況を確認する（月1回）。 (2) 未承認薬に関する情報は、PMDA未承認薬データベースや海外の添付文書等から収集する。 (3) 適応外使用に関しては、厚生労働省、社会保険診療報酬支払基金のウェブサイト、学会ガイドラインや論文等から、処方の必要性や副作用等の安全管理に係る情報を収集する。 (4) 禁忌使用に関しては、学会ガイドラインや論文等から、処方の必要性や副作用等の安全管理に係る情報を収集する。 (5) その他、採用医薬品全般の添付文書の情報のほか、医薬製造販売業者、行政機関、学術誌等からの情報を広く収集する。 (6) 添付文書情報（禁忌等）の改訂、追加等はDIレターにて周知する（月1回程度）。 (7) 緊急安全性情報等が発出された場合は直ちに情報収集し、処方医や各診療科に発信する。 2) 1)の報告を踏まえ、医薬品の適正使用のために必要な情報を院内メールや書面により院内全体に周知する。必要に応じ、担当薬剤師に書面により周知状況を確認させる。 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 使用状況の把握 <ol style="list-style-type: none"> (1) 未承認新規医薬品（当院で初めて使用する未承認医薬品については、医薬品安全管理責任者が、未承認新規医薬品担当部門の責任者・同評価委員会の委員として未承認新規医薬品審査手続に参加して、承認結果及び使用状況を把握する。 (2) 院内で定める手順に従い、未承認、適応外、禁忌を使用する際、医師は薬品情報室に連絡し必要に応じて申請を行う。 (3) その他の未承認等の医薬品の使用については、指名した薬剤師（調剤室又は注射調剤室所 	

属の薬剤師、病棟薬剤師)に発見を努めさせる。指名した薬剤師が発見した場合は、「未承認・適応・禁忌医薬品使用報告書」により報告を受ける。

2) 使用の必要性等の確認、指導

(1) 指名した薬剤師(調剤室又は注射調剤室所属の薬剤師、病棟薬剤師)が未承認医薬品の使用を発見した場合は、当該診療科に対し、未承認新規医薬品使用申請(新規の場合)や臨床倫理審査申請(新規以外の場合)をするように指導させる。

(2) これらの申請がなされた場合、その審査手続の中で医薬品安全管理責任者が、申請者に対し、処方必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無、処方の妥当性等を確認し適宜指導を行うことになる。

(3) 結果の共有

A 未承認新規医薬品の使用は、医療の質・安全管理部定例会議、医療の質・安全管理委員会で周知する。

B 薬剤部内にはメール、回覧にて周知する。

C 必要に応じて、指名した薬剤師(薬品情報室所属の薬剤師)に、院内全体に周知させる。

・ 担当者の指名の有無 (有)・無)

・ 担当者の所属・職種:

(所属: 薬剤部 病棟薬剤科、職種 薬剤師) 1名

(所属: 薬剤部 薬品情報管理科、職種 薬剤師) 3名

(所属: 薬剤部 調剤管理科、職種 薬剤師) 2名

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有・無

・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無)

・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容: 事例報告に関連して説明等の実施にかかる診療録等の閲覧・当事者へのヒアリング等を行い、規程(要領)の遵守状況を確認し、不適切な事例が認められた場合は指導する。

※平成二八年改正省令附則第三条第一号の適用を受け、平成28年10月1日より責任者を配置。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容:

診療記録管理専門委員会において、多職種で構成された監査人が毎月、診療記録の監査を行い、その結果をもとに報告書を作成し、病院長へ報告する。病院長は、当該診療科長へ監査結果を通知するとともに、改善報告書の提出を求める。

診療記録の記載方法や記載すべき内容等については、診療記録記載マニュアルで定めるとともに、「診療記録管理専門委員会だより」を発行して職員への周知を行っている。

また、IC記録に特化したIC点検を実施し、同意書の取得状況や意思決定の支援状況などを確認し、医療の質・安全管理部へ報告している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・ 所属職員: 専従(5)名、専任()名、兼任(9)名

うち医師: 専従(1)名、専任()名、兼任(4)名

うち薬剤師: 専従(1)名、専任()名、兼任()名

うち看護師: 専従(2)名、専任()名、兼任()名

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・ 活動の主な内容:

1) 医療の質・安全管理委員会等で用いられる資料の作成に関すること

2) 医療事故に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関すること

3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況についての確認及び指導に関すること。

4) 医療事故の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導に関すること

5) 医薬品に係る安全管理及び使用に関すること

6) 医療機器に係る保守点検及び安全使用に関すること

7) 医療事故防止対策に係る連絡調整に関すること

8) その他医療事故防止対策の推進に関すること

心電図未判読率、脳波未判読率、目的外診断があった放射線画像所見、パニック値及びDVT評価率をモニタリングし、医療の質・安全管理委員会において報告している。医療安全職員全体研修会においては、講演内容の確認テストを実施し、従業員の医療安全の認識具合をモニタリングし、医療の質・安全管理委員会において報告している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
平成29年2月27日付けで高難度新規医療技術の提供に関する要領を施行した。令和4年度中に当該技術を用いた医療の提供を行いたい旨の申請は4件で、4件を適当と判断した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
平成29年2月27日付けで未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する要領を施行した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 247件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 93件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
院内全死亡症例及び管理者が定める水準以上の事象（医療安全対策マニュアル「医療安全に関する報告基準」）該当例に関して医療の質・安全管理部に報告された内容を、医療の質・安全管理部定例会議（毎週1回開催）で報告・検討しており、その議事概要のメール配信（翌週）により、医療の質・安全管理委員会委員が上記検討内容を確認している。また、定期的医療の質・安全管理委員会（毎月1回開催）において、前月の「医療安全に関する報告基準」該当例に関して、再度確認を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：川崎医科大学附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：川崎医科大学附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
技術的助言は、特になし（Web開催）。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
病院における患者、家族等からの相談、苦情、意見、要望等に対して、迅速かつ適切に対応するため、平成28年改正前医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の23第3号の規定に基づき、平成15年4月1日に患者相談窓口を設置した。相談窓口は患者サービス室地域連携・患者相談係が担当し、当該係には、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員を配置し、責任者は患者サービス室長をもってあてている。また、窓口の受付時間は病院外来診療日の午前8時30分から午後5時15分までとしている。患者相談窓口は相談等を受け付け、相談等の内容の

うち窓口で対応できないものについては関係する部署へ取り次ぐとともに、当該部署からの回答、対応を得た後に相談者へ回答を行っている。また、相談等の内容で病院長に報告が必要な事例については、適宜その対応状況等を病院長に報告を行っており、さらに、医療の質・安全管理部及び医療安全室と相談等の情報を共有するため、月2回ミーティングを実施し、必要に応じて医療事故再発防止、安全対策の見直し及び病院運営改善等に活用している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

従業者が連携、協働して医療を提供するために必要な知識、技能であって高度な医療の提供に必要な事項として、「気づきを活かすRRS」（令和4年度第1回）、「医薬品の安全な使用について」・「医療機器および医療ガスの安全管理」（令和4年度第2回）、「心理的安全性について」・「適正麻薬使用についての当院での取り組み」（令和4年度第3回）について医療安全職員全体研修会で研修を行った。

また、「診療用放射線の安全利用のための研修」、「病院放射線業務従事者の実務概要」（令和4年度第1回）について診療用放射線の安全利用のための職員研修会で研修を行った。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

(管理者)

2022/2/9 2022年度特定機能病院管理者研修

(医療安全管理責任者)

2022/11/30 医療安全に関するワークショップ

2022/11/21 2022年度特定機能病院管理者研修

2022/6/14 令和4年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

(医薬品安全管理責任者)

2023/1/31 2022年度特定機能病院管理者研修

2023/1/22 2022年度 TeamSTEPPS シミュレーショントレーニング

2022/11/30 医療安全に関するワークショップ

2022/6/11 令和4年度医薬品安全管理責任者等講習会（基礎編）

2022/6/1 令和4年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

2022/4/21 医療安全概論 2022年

(医療機器安全管理責任者)

2023/2/9 2022年度特定機能病院管理者研修

2022/11/30 医療安全に関するワークショップ

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2019年12月16日～12月18日に公益財団法人日本医療機能評価機構が行う医療機関第三者評価「病院機能評価3rdG: Ver. 2.0（主たる機能：一般病院3、副機能：精神科病院）」の審査を受け、日本医療機能評価機構認定病院として認定を受けた。
認定期間／2020年4月25日～2025年4月24日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

審査結果をホームページに公開している。

・評価を踏まえ講じた措置

感染制御部体制整備として、医師、薬剤師を増員した。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

- 1 人格が高潔で、学識が優れ、本学の設立目的に基づき、地域及びグローバルな視野と患者を第一とする姿勢からの医学教育、医学研究、高度医療に貢献できる医師であること。
- 2 高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として必要な医療安全管理業務の知識・経験を有すること。また、医療安全を第一に考える姿勢から、管理者としての医療安全確保に対する指導力を発揮できること。
- 3 特定機能病院を管理運営する上で資質・能力を有し、院内の多様な職種の見解を尊重し運営に反映することに留意できること。また、状況の変化に適切に対応し、中長期的な目標に向かい具体的な構想を示し、強いリーダーシップを持って運営・経営ができること。
- 4 医療者と経営者の双方の視点からバランスのとれたリーダーシップを発揮し、大学病院の収支改善を推進できること。
- 5 近隣の医療機関、医師会及び行政機関等と良好な関係を保ちつつ、本院が北九州医療圏において、地域医療の中核的役割を果たす使命を達成できること。
- 6 若松病院と一体となって地域医療への貢献を果たすと同時に、経営面でも両院の発展に寄与できること。

・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

ホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 ホームページに掲載 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
福澤 義行	常務理事	○	理事長が指名した理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
大坪 正剛	常務理事		理事長が指名した理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
吉田 剛	常務理事		理事長が指名した理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
藤本 直浩	副院長		学長が指名した副院長	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
中山 敏幸	第2病理学		医学部教授会が推薦した教授	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
大松 真弓	看護部		大学病院看護部長	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
岩崎 照憲	福岡大学病院病院長		病院運営に関し広く、かつ、高い見識を有する学外者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
志波 直人	久留米大学病院病院長		病院運営に関し広く、かつ、高い見識を有する学外者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 病院の運営方針に関する事項</p> <p>(2) 病院運営に係る事業計画及び予算に関する事項</p> <p>(3) 病院の経営施策に関する事項</p> <p>(4) 医療に関する重要事項</p> <p>(5) 病院及び産業医科大学若松病院の運営に係る連携、連絡調整等に関する事項</p> <p>(6) 両病院の役職者等の選考に関する事項</p> <p>(7) その他病院運営に関する重要事項</p> <p>(8) 病院人事に関する事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 各合議体において、報告事項として資料、議事録を回付している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）</p>	
合議体の委員名簿	

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
田中 文啓	○	医師	病院長
藤本 直浩		医師	副院長
松田 晋哉		医師	副院長
矢寺 和博		医師	副院長
平田 敬治		医師	副院長
大松 真弓		看護師	副院長
吉田 剛		常勤役員	常務理事
伊藤 浩二		事務職員	病院事務部長
片岡 雅晴		医師	病院長補佐
山本 淳考		医師	病院長補佐

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
 - 1 病院長は、医療法に基づく管理者として、理事長の命を受けて、病院の運営に関する次に掲げる職務を行う。
 - (1) 医療安全管理について、十分な知見に基づく高度な医療安全管理体制の確保に関すること。
 - (2) 高度かつ先端的医療の提供に関すること。
 - (3) 病院組織の総合的な把握と、これらを含めた適切な病院の管理及び運営に関すること。
 - (4) 高度の医療技術の教育及び研究に関すること。
 - (5) 学生、医師、医療技術職の医療に関する教育及び研修の実施に関すること。
 - (6) 地域医療機関との連携及び発展に関すること。
 - (7) 診療及び病院の運営等に関する諸記録の適正な管理に関すること。
 - (8) 病院に関する経営情報の把握と経営の管理及び改善に関すること。
 - (9) 産業医科大学病院総合医療情報システム等の維持及び管理に関すること。
 - (10) 病院の個人情報管理に関すること。
 - (11) 病院の事業計画、予算の策定及び管理に関すること。
 - (12) 病院職員への運営及び経営方針等重要事項の周知に関すること。
 - (13) その他理事長から特別に委任された事項
 - 2 病院長は、管理運営上、必要な意思決定を行うとともに、人事及び予算執行に関する適切な権限を有する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - (1) 副院長を5名置き、病院長の職務の補佐を行っている。
 - ① 大学病院・若松病院一体運営担当
 - ② 総務・経営担当
 - ③ 診療・安全等担当
 - ④ 体制整備・人材育成担当
 - ⑤ 看護・病床管理・手術室運用・患者サービス担当
 - (2) 病院長補佐は、病院の管理運営、経営等に関する特定の業務を行っている。
 - (3) 病院長特命補佐は、病院長の職務の補佐を行っている。
 - ① 診療報酬に関すること。
 - ② 地域医療連携に関すること。
 - ③ 医療情報・医療支援に関すること。
 - ④ 医師の働き方改革に関すること。
 - ⑤ その他病院長が必要と定めること。
 - (4) 看護部特命事項担当部長を病院長直轄として配置し、以下の業務を行っている。
 - ① 増築する急性期診療棟に係る業務
 - ・ 病床管理（ベッドコントロール）
 - ・ 手術関係
 - ② 働き方改革に係る業務
 - ・ タスクシフトの促進
 - (5) 大学病院収支改善ワーキングチーム及び大学病院広報・集患ワーキングチームを病院長直轄として設置し、以下の業務を行っている。
 - ① 大学病院収支改善ワーキングチーム
 - ・ 病院の各診療科における病院長ヒアリング内容の精査、集約等による、病院の収支改善に関すること。
 - ・ その他病院長からの収支改善に係る特命事項に関すること。

② 大学病院広報・集患ワーキングチーム

- ・病院の知名度向上や、新規患者の獲得を目的とした、病院の魅力の積極的な情報発信に關すること。
- ・病院広報・集患を積極的に推進するため、ホームページの充実、SNS等の活用及び公開講座の開催等、具体的方策に關すること。
- ・患者紹介病院に対する患者獲得の方策に關すること。
- ・その他病院長からの病院広報・集患に係る特命事項に關すること。

・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

特定機能病院管理者安全研修の受講（副院長）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>管理者の下で医療安全管理責任者、医療の質・安全管理部、医療の質・安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者の業務が適切に実施されているか医療の質・安全管理委員会の議事や実地調査により監査を行っている。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>産業医科大学病院ホームページ上に公開</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
和田 秀一	(学)福岡大学	○	医療に関する学外の専門家	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
押川 麻美	(学)福岡大学		医療に関する学外の専門家	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
大杉 一之	(大)北九州市立大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の院外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
阿部 慎太郎	(学)産業医科大学		病院長が指名する本学職員	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	1
伊藤 浩二	(学)産業医科大学		本学病院事務部長	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

(1) 学校法人産業医科大学監事および監査室による内部監査を実施する。

[監査事項]

- ① 諸法規、学校法人の規則、規程、達等の実施状況
- ② 業務の執行及び経営の状況
- ③ 予算及び事業の執行状況
- ④ 資産の取得、管理及び処分に関する事項
- ⑤ 決算報告書及び財務諸表

(2) 監査の結果について、開設者に通知および報告する。

(3) 開設者は監査結果に基づき、改善等の措置の必要がある事項については管理者に業務改善等の措置を講じるように求める。

(4) 管理者は、速やかに対策、措置を講じ、その改善状況報告書を開設者へ提出する。

(5) 監事は、理事会その他重要な会議に出席し、意見を述べる事ができる。

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)

・ 公表の方法
ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p>① 学校法人産業医科大学理事会</p> <p>② 学校法人産業医科大学学内役員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況（ 理事会年2回 学内役員会年22回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（理事会年2回 学内役員会年22回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 医療安全に関する内部通報のフロー図を医療安全対策マニュアル及び医療安全対策マニュアル(ポケット版)に掲載するとともに院内各部署に掲示している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>住民及び患者が当大学病院を適切に選択できるように以下の方法で情報発信を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none">1 病院ホームページやSNSを通じて、各診療科が担当する疾患の診断及び治療方法等の紹介、先進医療の紹介、がん診療実績の紹介2 学外向け広報誌を通じて、健康に関する記事の掲載、掲載された新聞紙面等の紹介3 がんに対する検診や治療方法などについて、専門医による講演を行う市民公開講座の開催4 さまざまな疾患の最新治療や予防方法などについて、医療スタッフが講師として希望の地域に伺う出前出張公開講座の開催5 新聞紙面での手術等の診療実績の掲載6 テレビ等への出演による治療方法の説明	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <ol style="list-style-type: none">1 がんセンターにおいて、部位ごとに関連する診療科が連携して、集学的治療を実施している。さらに、緩和ケアセンターと連携して緩和医療の提供、遺伝カウンセリング科と連携して遺伝子パネル検査、遺伝性腫瘍などのがんゲノム医療を実施している。2 総合周産期母子医療センターにおいて切迫早産管理、ハイリスク妊娠管理、無痛分娩、産科異常出血など集学的治療が必要な症例に対しては主に産婦人科を中心とし、早産児管理、合併症を抱えた児などの重症新生児管理については新生児科、小児外科を中心とし、内科、外科、麻酔科、眼科、泌尿器科、脳外科等と連携し治療を行っている。3 血友病センターにおいて、内科（小児科）・整形外科・リハビリテーション科・歯科口腔外科の担当医による総合診察外来を毎月 1 回実施している。その中で、各患者が抱える問	

題を多面的に捉え、個々の状態に合わせた治療を提供できるように連携し診療を行っている。また、患者の各科治療・処置・検査の中の止血管理において、該当する科と連携・協働し治療を行っている。血友病保因者である女性の治療、妊娠期から産褥期の止血管理や新生児の出血リスク対応のため、産婦人科・小児科（新生児）との連携も行っている。

4 脳卒中センターにおいて、脳卒中血管内科、脳神経外科、脳神経内科、放射線科、リハビリテーション科、並びに救急科の専門医が、急性期医療を適切かつ効率的に提供し高度で包括的なチーム医療を行っている。

5 呼吸器病センターにおいて、各科の専門性を最大限に生かした「集学的治療」を提供するため、呼吸器・胸部外科、呼吸器内科、放射線科、放射線治療科、緩和ケアセンターなどの各領域の専門医、看護師、薬剤師、事務職員が合同で、胸部CT、MRI、超音波検査、FDG-PETなどの画像診断や内視鏡検査、病理診断、社会環境などの情報を共有のもとに診断・治療戦略を立てたうえで、拡大手術や低侵襲手術、外来および入院化学療法、放射線治療や緩和照射、緩和ケアなどを積極的に行っている。特に化学療法の際には、抗癌化学療法の専門医、薬剤師、専門の看護師が連携して治療を行っている。また、呼吸器内科医でもある緩和ケアセンター専従医師により、歯科評価を含めた緩和ケアも提供している。

さらに、肺炎、肺真菌症、肺非結核性抗酸菌症、気管支拡張症などの難治性呼吸器感染症に対しても、分子生物学的手法などの先進的な手法を含めた積極的な原因菌検索とそれに基づいた適切な抗菌化学療法を実践している。また、気胸、膿胸や治療抵抗性の肺非結核性抗酸菌症などに対する外科的治療も積極的に行っている。

6 外傷再建センターにおいて、救急科、集中治療部のみならず、感染制御部、放射線科、整形外科、リハビリテーション科、総合診療科などと診療において協力体制をとり、多発外傷や重度四肢外傷、重症骨関節軟部感染症に対する治療処理と全身・局所状態を確認しながら段階的な四肢骨盤外傷治療を行っている。また、産業医実務研修センターや産業生態科学研究所とタイアップして労働災害に関する共同研究を行っている。

7 就学・就労支援センターにおいて、治療と就学・就労の両立支援を希望する患者に対して就学・就労支援センター所属の多職種（看護師、保健師、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師）からなる両立支援コーディネーターが患者との面談と支援を行っている。必要に応じて、両立支援科医師と主治医、すべての診療科に配置している両立支援科兼任医師が就労復帰に必要な配慮等を示す「意見書」を作成している。また、就学・就労を支援するために薬剤師や療法士、栄養士などの専門職もカンファレンスに参加している。